

阿蘇市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）点検評価結果

「第2次阿蘇市地球温暖化対策実行計画（H26～H30）」に基づき、平成27年度に実施した本市の事務事業において使用された電気、燃料などの量を調査し、これに伴う温室効果ガス排出量の点検・評価を行ったので公表します。

計画では、平成25年を基準年として、計画期間終了年度である平成30年度の二酸化炭素排出量を5%の削減（排出量 5,231t-CO2）することを目標としております。

平成27年度の二酸化炭素排出量は 6,021.49t-CO2 であり、こまめな節電や冷暖房の設定変更、LED照明など省エネ機器の導入により多くの施設で減少傾向にあります。

しかしながら、平成26年度途中に開院した阿蘇医療センターの施設拡大や水道施設での送水量増加に伴う排出増加のため、全体として平成26年度から減少したものの基準年と比較して 515.02 t-CO2 (+9.4%) 増と依然大幅に増加した状況にあります。

施設拡大などの特殊要因を除いた排出量は 5203.17 t-CO2 が想定され、平成30年度の目標以上の削減ができている状況にあります。

なお、要因別の排出量は、電気（80%）と灯油（9%）の2項目で全体の約90%を占める状況にあり、電気、ガソリン以外の項目では減少傾向にあります。

地球温暖化は、大雨や大雪、干ばつなど異常気象を引き起こす要因として指摘されています。温暖化に大きな影響を与える二酸化炭素の排出は、エネルギー消費と密接に関連しており、気候や産業動静などの影響が顕著に現れるため容易に削減できるものではありませんが、未来の私たちの生活を守るために全職員が日常の行動から更なる省エネルギー化を意識できるよう啓発に努めるとともに、積極的な省エネ設備の導入を図る等の新たな取組が必要と考えます。



